

# 未来 農業 DAYS

2019年3月8日

- アワード部門：農山漁村女性活躍表彰
- コンペ部門：第3回大地の力コンペ
- 天皇杯受賞 山田 敏之氏 基調講演

主催：未来農業 DAYS 実行委員会

(農山漁村男女共同参画推進協議会 & 女性未来農業創造研究会)

特別協賛：公益財団法人イオンワンパーセントクラブ 後援：農林水産省

会場：東京国際フォーラム 東京都千代田区丸の内3丁目5-1



# 平成 30 年度農山漁村女性活躍表彰

## 目的

農林水産業に従事する女性は、農山漁村を支え、農山漁村生活の充実と6次産業化をはじめとした地域経済の活性化に重要な役割を果たしており、その能力が一層発揮されるよう支援していくことが必要です。

また、女性の役割の重要性が高まっている中、地域社会や農林水産業経営や政策・方針決定過程への女性の参画状況、関係組織への登用状況は、いまだ十分でないことから、さらなる参画の拡大を促進するとともに、女性農林水産業経営者の能力を最大限に活かし活躍してもらえよう環境を整備し、次世代リーダーとして農山漁村を引っ張る女性を増やしていくことを通じ、農林水産業の発展を図ることが必要です。

このため、農林水産業及び農山漁村の活性化や農林水産業経営や政策・方針決定への女性の参画推進、次世代リーダーとなりうる若手女性の農林水産業への参入など女性活躍推進のために積極的に活動している個人又は団体を表彰することにより、女性が農山漁村でいきいきと活躍できる環境づくりの推進に資するものとします。

## 受賞個人・団体

### 最優秀賞

#### (農林水産大臣賞)

A 女性地域社会参画部門	熊本県	菊陽町	那須 真理子
B 女性起業・新規事業開拓部門	栃木県	下野市	企業組合らんどまあむ
D 女性活躍法人部門	岩手県	一関市	有限会社かさい農産
E 女性登用・組織参画部門	鹿児島県	鹿児島市	鹿児島県農業委員会女性委員の会
F 若手女性チャレンジ部門	福島県	二本松市	菅野 瑞穂

### 優秀賞

#### (経営局長賞)

A 女性地域社会参画部門	福岡県	小郡市	草場 小夜子
B 女性起業・新規事業開拓部門	北海道	美唄市	合同会社なかむらえぶろん倶楽部
C 家族経営女性参画部門	埼玉県	狭山市	宮岡 操 宮岡 功
D 女性活躍法人部門	長野県	白馬村	有限会社ティーエムしろうま農場
E 女性登用・組織参画部門	熊本県	玉名地域	農業委員会玉名地方女性の会
F 若手女性チャレンジ部門	新潟県	新発田市	若杉 智代子

#### (水産庁長官賞)

A 女性地域社会参画部門	北海道	根室市	酒井 昌子
--------------	-----	-----	-------

### 優良賞

#### (全国漁業協同組合連合会長賞)

A 女性地域社会参画部門	徳島県	小松島市	鳴滝 貴美子
--------------	-----	------	--------

#### (全国農業協同組合中央会長賞)

A 女性地域社会参画部門	福井県	福井市	J A 福井市女性部ジンジャーガールズ
--------------	-----	-----	---------------------

#### (農山漁村男女共同参画推進協議会長賞)

A 女性地域社会参画部門	埼玉県	朝霞市	渡邊 澄江
B 女性起業・新規事業開拓部門	愛媛県	久万高原町	株式会社 F F T
C 家族経営女性参画部門	群馬県	太田市	茂木 利子
D 女性活躍法人部門	長崎県	島原市	有限会社 島原自然塾
F 若手女性チャレンジ部門	千葉県	銚子市	木村 晃子



# 審査員



## ◆審査員長◆

岩崎 由美子 氏 福島大学行政政策学類 教授

### ●経歴●

埼玉県生まれ。早稲田大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学。住民主体の計画づくり、農山村地域活性化、農村女性起業、震災からの地域復興などを研究。主な著書として、『〈食といのち〉をひらく女性たち』（農文協、共著）、『食と農でつなぐ 福島から』（岩波書店、共著）、『小さな自治体の大きな挑戦－飯舘村における地域づくり』（八潮社、共著）、『女性の参画と農業・農村の活性化』（全国農業会議所）、『成功する農村女性起業』（家の光協会、共編著）など。



納口 るり子 氏 一般社団法人 女性未来農業創造研究会 代表理事 / 筑波大学大学院生命環境科学研究科 教授

### ●経歴●

1957年生 神奈川県小田原市出身。蜜柑農家の次女として誕生し、北海道大学農学部農業経済学科卒業。その後、農林水産省の試験研究機関（東京・つくば・新潟県上越市）で21年間、先進農業経営者の経営管理や農家間の組織化などについて研究を行う。2000年から筑波大学にて、教育と研究に従事。



五條 満義 氏 東京農業大学国際食料情報学部国際食農科学科 准教授

### ●経歴●

全国農業会議所に8年間勤務後、1997年年に東京農業大学専任講師、2003年に助教授、07年から准教授。国の第2次・第3次・第4次の「男女共同参画基本計画」の策定をめくり、内閣府男女共同参画会議専門委員を務めた。著書に『家族経営協定の展開』（筑波書房・2003年）、『中国の大学と農村は今』（東京農大出版会・2008年）、『家族経営協定 最前線』（全国農業会議所・2010年）などがある。



小川 理恵 氏 一般社団法人日本協同組合連携機構（JCA）主席研究員

### ●経歴●

一般社団法人日本協同組合連携機構（JCA）基礎研究部 主席研究員。1997年に、前身である社団法人地域社会計画センターに入会。総務課長、企画調整室長を経て研究職に職種転換、現在に至る。研究分野は地域づくりと女性活動。主な著書に『魅力ある地域を興す女性たち』（農文協、2014年）、『事例から学ぶ組合員と進めるJA自己改革』（共著、家の光協会、2018年）、『営農経済事業イノベーション戦略論』（共著、筑波書房、2018年）、他。



永井 進 氏 株式会社 永井農場 代表取締役 [www.nagaifarm.co.jp](http://www.nagaifarm.co.jp)

### ●経歴●

1971年、長野県小県郡東部町（現・東御市）生まれ。北海道酪農学園大付属高校 酪農経営科、北海道文理科大学短大酪農科で学び、卒業と同時に就農。

1996年、農業生産法人 有限会社永井農場を設立 2009年8月、代表取締役就任。

『よろこばれる』を会社のミッションとして地域に根差した循環型農業を基盤にして生産から加工販売まで6次産業化を展開。2011年、第50回農林水産祭において天皇杯を受賞



安形 京子 氏 （一社）全国農業経営コンサルタント協会 理事 / 安形税務会計事務所 税理士・行政書士

### ●経歴●

福島県会津生まれ。当初名古屋市民生局委託社会福祉施設に勤務。その後養豚農家に嫁ぎ農業の現状を知る。会計事務所に勤務後1995年安形税務会計事務所を設立。最初から農家の応援を使命と位置づけ愛知県農業経営改善支援センタースペシャリストに登録。県の普及所、市の農政課、JA関係等の依頼で農業簿記会計及び税務の講師を引受ける。（一社）全農協に入会し農業簿記検定試験立上げメンバーに加わり、教科書作りや試験委員にて活動。日本政策金融公庫農業経営アドバイザー上級試験合格、食Pro.取得、AFP、経営革新等支援機関認定。愛知県経営相談所専門家派遣事業に登録し日頃は税理士事務所の所長として個人、法人、資産税等の税務会計に従事。

# 受賞者

平成30年度農山漁村女性活躍表彰では、以下の6部門を表彰いたします。

- A. 女性地域社会参画部門  
農山漁村の女性が中心となった地域の農林水産業の振興及び農山漁村の活性化のための活動等を中長期に渡り積極的に実施している取組。
- B. 女性起業・新規事業開拓部門  
女性ならではのアイデア等に基づいた起業活動や新規事業により成果を得ている取組
- C. 家族経営女性参画部門  
家族経営協定の締結を契機に仕事・生活面において役割分担を明確化し女性が活躍している取組
- D. 女性活躍法人部門  
女性のキャリア形成・育児などの就業規則等、女性が働きやすい環境整備している法人
- E. 女性登用・組織参画部門  
政策・方針決定過程への参画を推進するため、積極的に役員等への女性登用に努め効果を上げている組織
- F. 若手女性チャレンジ部門  
他産業で培った知識を活かした取組やこれまで女性が携わることの少ない部門への参画など若手女性の取組

## 農林水産大臣賞

### A. 女性地域社会参画部門



#### 那須 真理子 熊本県菊陽町

結婚を機に就農。地域のより良いコミュニケーションづくりのため「みずき座」を結成し、寸劇をとおして、男女共同参画社会を広く訴えてきた。平成15年から、農業委員を務め、平成23年には菊陽町で初めての女性の農業委員会長を務める。平成13年、BSEが発生し、牛肉の価格が暴落した経営危機の際、自力で牛1頭を販売したことが、現在の生産・加工・販売に繋がる。平成21年に自宅敷地内に直売店舗を構え、自身が育てたあか牛を完全予約制で販売している。熊本モーモレディーズ連絡協議会、全国畜産縦断いきいきネットワーク等の設立・運営に携わり、女性畜産農家の活動強化に努める。平成27年5月からは菊陽町議会議員として女性も働きやすい地域づくりを目指し活躍。菊陽町男女共同参画条例の制定に尽力。平成23年から28年農林水産省食料・農業・農村政策審議会 畜産部会臨時委員。

## 農林水産大臣賞

### B. 女性起業・新規事業開拓部門



#### 企業組合 らんどまあむ 栃木県下野市

「農業の6次産業化で、女性の能力が発揮できる場所をつくりたい」と女性農業士、管理栄養士、調理士、看護師や介護ヘルパーといった多様な人材が集まり、下野市の豊かな大地が育む農産物を使った手作り総菜や弁当の販売に取り組んでいる。「らんどまあむ」は「大地の母」をイメージした造語。女性農業士の大越歌子代表理事の農場で生産された特別栽培米等を使用し、地元で代々伝わる郷土料理の発掘と伝承に力を入れることで、食の大切さを地元の子供達や一般消費者に伝え、地域の食育活動に貢献。また、下野市の委託事業として高齢者世帯の配食サービスとともに安否確認も行う。ワークライフバランスを踏まえた女性が働きやすい職場環境作りにも取り組み、勤務体制や給与の支払い方法を見直すなど、男女が共に活躍する社会の実現に向けた模範ともなっている。

## 農林水産大臣賞

### D. 女性活躍法人部門



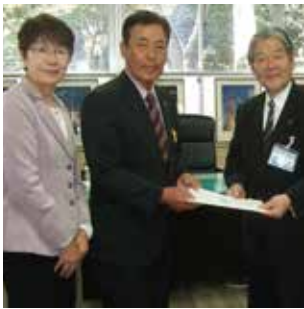
#### 有限会社かさい農産 岩手県一関市

全ての社員が働きやすい労働環境の整備は、県内でも先駆的取組。女性2名を取締役に起用、構成員の74%を女性が占めるなど、地域の女性を積極的に雇用し、研修受講や資格取得支援を行うなど、女性のキャリア形成・能力開発に積極的に取り組んでいる。県初のGLOBAL G.A.P 認証取得農場であり、GAP指導員(内部監査委員含む)資格取得者5名のうち3名が女性となっている。地域の要望に応え実施するイベントや女性社員の発案による料理教室などは、地域住民の交流促進や地産地消、食文化の継承などにもつながり、農村地域の活性化に貢献しており、また、農福連携による障害者就労受入や自立支援の場としても機能するほか、大学のインターンシップ受入や研修生受入による地域農業の担い手育成など、地域への貢献度は高い。



## 農林水産大臣賞

### E. 女性登用・組織参画部門



#### 鹿児島県農業委員会 女性委員の会 鹿児島県鹿児島市

平成9年9月設立。平成30年5月8日時点で、43市町村全てで女性農業委員が選任され、「女性農業委員ゼロの農業委員会の解消」を達成。すべての農業委員会が新体制となった平成30年9月末時点では、農地利用最適化推進委員24名とあわせて、116名の女性委員が活躍している。南種子町農業委員会では、会長に女性委員を選出、女性の会長職務代理も5名選出。平成28年12月時点で、女性委員ゼロの7市町村、1名の12市町村全てに、要請書を提出。女性登用の重要性について、「女性ならではの感性や視点を活かした活動で、農業委員会活動の幅が広がっているとの評価をいただいている」など現場の声を伝えた。また、女性委員の登用促進と併せ、鹿児島県農山漁村女性組織連絡協議会と連携。農業・農村活性化に向けた家族経営協定や、農業者年金の推進、食育の実践なども積極的に取り組んでいる。

## 農林水産大臣賞

### F. 若手女性チャレンジ部門



#### 菅野 瑞穂 福島県二本松市

東京の大学を卒業後、20年来有機農業に取り組む父の下で就農。東日本大震災後、放射能被害と向き合いながら、2013年自らが代表取締役となり、「きぼうのたねカンパニー株式会社」を設立。都市と地域、人と自然をつなぐ活動を開始。大手旅行会社と連携して事業化したスタディーツアーは、体験を通じ当事者として風評被害や復興について考えるシステムが評価され、2017年ツアーグランプリを受賞。全国から毎年100名近い参加者があり、地元農家民宿の増加や、実際に移住者が生まれる等、地域の活性化を促している。また、自身がインターネットを通じて販売する約40種類の野菜、米なども、ツアー参加者がそのまま固定客となるなど、活動は広がりをみせている。福島の有機農業の実情についての講演も国内外で60回に及ぶ。今後も若手リード役として、さらなる活躍が期待される。

## 経営局長賞

### A. 女性地域社会参画部門



#### 草場 小夜子 福岡県小郡市

昭和51年、結婚を機に就農。昭和62年、自身が新たな品目の栽培を行いたいとミニポットカーネーション部門を設立。平成4年、新たにデンファレ部門を設立。海外研修や視察研修に参加、海外への苗の買い付けから販売まで、行う。栽培には女性の感性と技術が必要と、働きやすい職場環境を整え、技術力のある女性従業員の確保を図る。独自ブランド「Madam Sayoko」を立ち上げ、栽培・販売するランにタグをつけて出荷。平成16年、認定農業者となり、自分名義で県補助事業を申請、デンファレのハウス500坪を拡大。女性が独立した部門経営に取り組むモデルとして、研修会や講演会の講師、県内外からの視察受け入れも行う。平成27年、小郡市の農業委員に就任。後継者の婚活支援や、若い女性の新たな組織づくりへの支援にも取り組む。

## 経営局長賞

### B. 女性起業・新規事業開拓部門



#### 合同会社なかむらえぷろん倶楽部 北海道美唄市

「中村地域のお米に付加価値を付けて販売し地域振興につなげたい」と模索していた女性達が、平成10年、地域内の若手女性農業者に呼びかけて組織を立ち上げ、美唄市中村地域の郷土料理であった「中村のとりめし」の加工・販売を始めた。「釜宅」や、「炊き込みセット」など、女性の視点から販売アイテムを増やし、市内や近隣市町村の農協店舗、アンテナショップ、サービスエリア等に常時置き、固定客を獲得。また、地元郵便局の「ふるさと小包」や、各種市内内外のイベント販売により、美唄産米のPRと新規顧客獲得を行うなど、市民に支持される商品となった。美唄市中村地区開墾の歴史から生まれた郷土料理を広く伝え、地域の歴史と食文化の伝承に貢献するほか、美唄産米のPRにも繋げるなど、地域振興にも寄与している。

## 経営局長賞

### C. 家族経営女性参画部門



#### 宮岡 操 宮岡 功 埼玉県狭山市

結婚を期に茶業農家へ就農。平成8年、経営を引き継ぐと同時に、農作業や家事、育児などの家庭内の仕事、給料などを明文化した家族経営協定を、市内第1号で締結。その後、県内で初めて女性農業者として農業者年金に加入。農業経営では、簿記記帳を担い、全体の経営を把握するとともに、自らが大型農業機械を操作するなど、積極的に農作業にも取り組んでいる。また、長男が就農した際には、給料や休日に関する内容を見直すなど、家族経営協定を農業経営におけるルールと位置づけて活用。この取組をさいたま農村女性アドバイザー研修会にて優良事例として発表するなど、女性農業者の地位向上に尽力した。現在は、さいたま農村女性アドバイザーの県域組織の会長を務め、次世代の女性農業者の育成、女性農業者の経営参画を支援している。

## 経営局長賞

### D. 女性活躍法人部門



#### 有限会社ティーエムしろうま農場 長野県白馬村

水田を活用したそば栽培受託組織から発展し、現在では村内耕作面積の約22.8%（130ha）を耕作。そばや水稻の他、施設野菜やブルーベリーなどの生産、農産物直売所兼農家レストランの運営、体験農業と経営の複合化を進めてきた。また、自社の農産物や委託加工品をオリジナルブランド商品「白馬そだち」として展開している。代表取締役の津滝明子氏は、これら事業には、女性の力が必要と、女性が働きやすい環境を整え、雇用の確保、人材の定着を図っている。「マーケットイン」「生産より販売重視」を基本に「システムづくり」「人づくり（人材育成）」による事業展開を進め、その手段の一つとして米、野菜等主な品目毎にJGAP認証を取得し実践している。地域の重要な担い手として活躍しており、今後の発展が期待される。

## 経営局長賞

### E. 女性登用・組織参画部門



#### 農業委員会玉名地方 女性の会 熊本県玉名地域

平成15年6月発足。現在農業委員に占める女性の割合は15.7%であり、全ての市町で複数名の女性農業委員が在籍している。平成29年7月の荒尾市農業委員会改選の際は、前年12月に荒尾市を訪問、市長・議長等へ「農業委員への女性の登用に関する要望書」を提出し、2期6年ぶりに2人の女性農業委員が誕生した。当会では、農業委員の任期である3年ごとに、各市町の首長等へ「農業委員への女性の登用に関する要望書」を提出し、積極的な女性登用にに向けた取組を実践している。また玉名地域農山漁村女性組織連携会議の組織の運営及び企画にも携わるとともに、各種研修会等にも参加し、各組織と情報交換、連携していくことで、女性の地位向上並びに農業及び地域の振興に寄与している。

## 経営局長賞

### F. 若手女性チャレンジ部門



#### 若杉 智代子 新潟県新発田市

新発田市に生まれ、平成26年度に父の畑地を仮受け新規就農し、経営を開始。新潟県育成品種のいちご「越後姫」をハウス1棟で栽培。県等主催の研修会に参加、栽培技術を磨き、新潟県施設園芸立毛品評会にて、平成27、28、30年に優秀賞等を受賞。2年目から6次産業化に着手、当該地域で初めて「越後姫」の乾燥加工部門を導入し、平成30年4月に加工所兼販売所の「Ichi-Rin 苺稟（いちりん）」をオープン。加工作業と栽培管理に障害者2名雇用し、労賃は他の雇用者と同様に支払うなど農福連携をすすめている。新発田市農業委員会農地利用最適化推進委員、女性農業委員登用促進アドバイザーとして地域農業の発展にも尽力。氏の取組の実践や発信により、地域の若手の女性農業者の経営参画への意欲が向上するなど、今後も地域の農業者への波及が期待される。



## 水産庁長官賞

### A. 女性地域社会参画部門



#### 酒井 昌子 北海道根室市

平成9年魚価の付加価値向上と、鮮魚の無い時期の商品として「浜のかあさんの味」をコンセプトに、女性部による加工事業が開始された。平成18年、「ほっき飯の素」プロジェクトが発足。以後地区内でも取扱の多いホッキ、ホタテなどの貝類を使用したレトルト食品の開発に精力的に取り組み、道内はもとより全国へ向けて発信。平成30年には、累計販売数が12万パックを超え、漁協の販売事業に大きく貢献している。また、地元水産物のPR、食育、魚食普及のため、中学校や市民向けの料理教室の開催や、根室市外からの集客もある漁協の感謝祭で販売の他、地区内漁港の清掃活動や、ペットボトルキャップの寄贈運動など、地域貢献、社会福祉活動にも積極的に取り組んでいる。平成19年より根室湾中部漁業協同組合女性部長。指導漁業士。

## 全国漁業協同組合連合会長賞

### A. 女性地域社会参画部門



#### 鳴滝 貴美子 徳島県小松島市

氏が会長を務める「こまつしま漁と農ゆめ会議」では、2011年度から氏率いるJF和田島女性部を中心として、地域団体や大学、学識者、専門家、企業、行政と協働連携し水産業と地域活性化を目指して活動に取り組んでいる。多様な協働連携が、魚食、環境保全、防災、環境教育、販売、交流等多くの分野へ活動の広がりを創出している。JF和田島女性部部長としては、「和田島ちりめん市」を企画、運営。2016年には、JF和田島女性部食堂「網元や」を開店し、ちりめんの知名度アップに努めている。また、会長を務める「和田島女性元気会」では、地域の親子を対象に漁業の体験型学習を実施し、ワカメの基礎知識、芯抜き体験等、講師を務めている。清掃活動や海洋環境の生物調査や植樹等も実施し、「保全」と「活用」を一体化した漁村や港の活動を行っている。

## 全国農業協同組合中央会長賞

### A. 女性地域社会参画部門



#### JA 福井市女性部 ジンジャーガールズ 福井県福井市

JA福井市女性部は平成24年に「生姜で福井を元気に」を合い言葉に「ジンジャーガールズ」という愛称でブランド野菜作りを開始。栽培暦の作成や、学習会、モデル圃場の設置、圃場巡回、先進地への視察研修など積極的な技術研に努め、栽培面積は平成29年に2ha、生産量は25tまで拡大した。3年目に「越前しょうが」として市場出荷を開始。福井市の特産として定着。販路開拓や消費拡大に取り組み、現在9商品の加工品の売り上げは900万円を超える。地元ラジオ局とコラボした親子対象の「生姜収穫料理体験」や、児童クラスと連携して生姜を栽培する「ジンジャーキッズ」の育成など、食農教育活動も展開。当初409名だった会員は、6年目には1626名と急速に拡大。幅広い年代の女性部員の生きがいと活躍の場となり、地域活性化に大きく貢献している。

## 農山漁村男女共同参画推進協議会長賞

### A. 女性地域社会参画部門



#### 渡邊 澄江 埼玉県朝霞市

昭和63年就農。地域の農村女性のリーダーとして農村女性組織「若菜会」をつくり、仲間づくり、地域貢献から、地域の農村女性の社会参画を進める活動母体に育てあげた。現在、市の農業委員には若菜会から2名登用されるようになっているが、先進的な視点をもって農業委員への登用推進等の活動を行い、後継者を育成し、農村女性の社会参画への糸口をつけた。農業経営の面でも、地域に先駆けて直売や観光農業に取り組み、都市農業地域の特性を活かして都市住民と共生する農業の道を開く。周辺地域では直売や体験型市民農園が増加し、若い農業後継者も就農。農地の保全、営農の継続につながっている。現在はJAあさか野の理事として経営に参画、農村女性活躍のモデル的な存在となっている。

## 農山漁村男女共同参画推進協議会長賞

### B. 女性起業・新規事業開拓部門



#### 株式会社 F F T 愛媛県久万高原町

当社は、林業の受託作業のほか、トマトの栽培及び加工部門を有し、取締役の露口由美子氏が部門責任者を務める。JA松山市久万高原トマト部会の会員としてトマトの栽培をするとともに、選果場で発生する格外品の有効活用を図る加工品づくりに取り組む。地元業者とシャーベットやトソフトクリームなどのコラボ商品の開発や、県立農業大学校学生のプロジェクト活動と連動するなど多様な商品開発に努める。看板商品であるトマトジュースは、「生鮮野菜の少ない冬に美味しい久万高原のトマトを」と、添加物を一切使用しないこだわりの逸品。町内の女性6人を常時パートで雇用し、女性が働きやすい環境を整備。女子大生等のインターンや現地研修生を積極的に受け入れ、就農希望者の確保・育成にも取り組み、地域の活性化に大きく貢献している。

## 農山漁村男女共同参画推進協議会長賞

### C. 家族経営女性参画部門



#### 茂木 利子 群馬県太田市

昭和49年後継者として就農。野菜・水稻・酪農等の複合経営を営む。昭和59年、酪農の主担当として経営を任せられ、効率化を図るため大型特殊自動車免許や農業機械士などの資格を取得、パソコンを活用した簿記帳を導入、これらの知識を地域にも展開し、地域の農業発展にも大きく貢献。平成19年に長男が後継者として就農、翌年、夫・長男との三者で家族経営協定を締結。経営上の役割分担が明確化、効率化が図られ、繁殖和牛部門や自給飼料の生産体制の拡大等、規模を大きく広げた。平成26年市議会推薦で太田市農業委員となり、平成28年には、「ぐんま農業委員会女性ネットワーク」の副会長に就任。女性農業委員の重要性を唱え、家族経営協定の締結促進を図るなど、県内の女性農業委員のリーダーとして精力的に活動している。

## 農山漁村男女共同参画推進協議会長賞

### D. 女性活躍法人部門



#### 有限会社 島原自然塾 長崎県島原市

経営方針の決定に女性が積極的に参加し、女性従業員の持つ感性を取り入れ、収益をあげている。仕事と家庭の両立が可能な環境づくりや、女性従業員の能力開発を積極的に進め、活躍できる環境を整備。また、農作業機械化とあわせて全ての社員が快適に働ける環境づくりに取り組む他、連携する生産者グループへの家族経営協定の推進、簿記研修会の開催など、女性農業者の経営参画を支援し、地域の女性活躍にも大きく貢献している。取締役の酒井美代子氏は、普及指導協力委員、長崎県グリーンライフアドバイザー連絡会初代会長、島原市第1号の女性農業委員、島原市初の女性議会議員等を歴任し、男女共同参画に関する各種セミナーにおいて50回以上の講演を行うなど、男女共同参画、食農教育、消費者との交流など、長崎県の農業振興に尽力。

## 農山漁村男女共同参画推進協議会長賞

### F. 若手女性チャレンジ部門



#### 木村 晃子 千葉県銚子市

平成23年結婚を機に15代続く専業農家に就農。平成24年～26年に農業事務所主催のアグリレディーズセミナーに参加、同世代の仲間と平成27年に「アグリレディーズ rococo」を結成。農業や農家生活を楽しみながらスキルアップする活動に取り組み、今年度は副会長としてネットワークづくりに貢献している。平成26年に「ウッド村ファーム」を立ち上げ、個人事業主登録し、自家生産物に付加価値をつけるトマトチキンカレーを異業種と連携して製造販売を始めた。また、銚子市をPRするために、漁業、商工業者などと連携してイベントを企画、斬新なアイデアで農業音楽イベントの開催、市のオリジナルCD作成、ゲームメーカーとのコラボなど、その活動は、農業＝農作業という従来の型を破り、異業種と連携しながら農村の魅力をPRし、地域農業に新風を吹かせている。